

事務連絡
平成28年 2月 4日

(一社) 日本移植学会
(一社) 日本造血細胞移植学会 } 御中

厚生労働省健康局難病対策課
移植医療対策推進室

ジカウイルスによることが疑われる小頭症等の増加に
関する WHO 緊急委員会宣言について (情報提供)

日頃より、移植医療の推進にご尽力いただき御礼申し上げます。

今般、ジカウイルス流行地域における小頭症と神経障害に関する WHO 緊急委員会が開催され、小頭症及び神経障害の集団発生に関する「国際的に懸念される公衆の保健上の緊急事態」(Public Health Emergency of International Concern (PHEIC))が宣言されました。

厚生労働省では既に平成28年1月21日に都道府県等にジカウイルス感染症の検査診断等に対する情報提供(「ジカ熱に関する情報提供及び協力依頼について」(平成28年1月21日 事務連絡 厚生労働省健康局結核感染症課))がなされ、さらに2月2日、「ジカウイルスと小頭症などの増加に関する WHO 緊急委員会報告について」の報道発表がなされています。

ジカウイルス感染症はフラビウイルス科のジカウイルスによる蚊媒介感染症で、ヒト-ヒト間の感染は、胎児への垂直感染が確認されていますが、その他のヒト-ヒト間の感染は一般的には稀と考えられています。

しかし、ジカウイルスについては輸血などによる感染の可能性が指摘されていることもあり、移植臓器や造血幹細胞を介した感染の可能性も否定できないこと、さらに移植患者は免疫抑制状態下にあることから重症化する可能性も全くは否定できないことから、臓器移植及び臓器等の提供について一定の制限が課されているところではありますが、各あっせん事業者(日本臓器移植ネットワーク、日本赤十字社、日本骨髄バンク、日本アイバンク協会)に対し、注意喚起のための事務連絡を发出させていただいております。

以上について貴学会会員等に対する周知につきまして、ご配慮のほどどうぞよろしくお願いいたします。

(参考)

厚生労働省HP「ジカウイルス感染症について」

<http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000109881.html>